

2025（令和7）年度事業報告

中国宋慶齡基金会との「教育交流プロジェクト」の推進確認のもとに、2021年度からの5か年計画の5年次として、河北省保定市阜平县における取り組みの推進を行いました。教育交流派遣事業・支援事業・受入事業の展開へと結ぶことのできる草の根教育交流をより深く、多様に発展させることを目指して計画を進めました。2025年度は、2024年度の「役員訪中団」派遣の成果をもとに、「視察研修訪中団」の派遣を行い、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受入、「第5回音楽教育交流会」の開催等の取り組みをより具体的に進めようと計画し実施しました。2024年度の「役員訪中団」派遣の時とはちがい、ビザなし訪中が可能になったことによりスムーズな形で訪中ができました。15名という訪中団の実施により、中国宋慶齡基金会との「教育交流プロジェクト」について、前向きな強い共同意識を確認することができました。そして、今回のプロジェクトの推進地区である河北省保定市阜平县の小学校、職業訓練校、教育実践関係の展示等の視察、また阜平县当局、体育教育局、職業教育訓練校、県立小学校等の教育関係者との意見交換会を通し、相互に教育交流に対する意思確認が計れたことは、大きな成果でした。結果として、教育交流派遣事業については「第18次教育訪中団」の派遣を、受け入れ事業については「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受入を、教育交流の具体的内容としては「第5回音楽教育交流会」の開催等についての確認を行うことができました。また、教育交流支援事業については、宋慶齡基金会との協議を通して、5年次となる「音楽教育支援」を河北省保定市阜平县に行いました。教育交流研究等助成事業については、学生の語学研修のみならず、ホストファミリーを中心に日中友好、相互理解の輪をも広げてきたホームステイ事業を、「第10回教育交流ホームステイ in 山梨」という形で実施しました。また、2024年度に引き続き、「田中一郎記念奨学基金」による、主に東南アジアからの留学生を対象とした、「第2回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール」を実施しました。「第8回日中教育文化交流シンポジウム」の開催については、現役の中国人大学生・留学生、中国留学経験を持つ日本人大学生にシンポジストとして参加してもらい、日中の教育文化交流について考えました。協会が後援している「第21回日本語作文コンクール」については、例年のように作品の審査と「教育賞」受賞者の選定を行いました。また、リモートによる「第8回日中ユースフォーラム」にもコメント・討論者として参加しました。

1, 教育交流・派遣事業

2025年度は、2024年度5年ぶりに訪中した「役員訪中団」の成果を踏まえ、各団体よりの代表者15名で「視察研修訪中団」を組織して、中国宋慶齡基金会・河北省保定市阜平县への訪問を中心に行いました。宋慶齡基金会においては、中国宋慶齡青少年科学文化交流センターの見学を行い、宋慶齡故居の見学の後、故居内の会議室で、沈蓓莉常務副主席との会見を行いました。今後の「共同プロジェクト」の進め方について、有意義な話し合いとなりました。阜平县においては、山咀頭小学校の学校視察と音楽授業参観を行いました。その後、阜平县当局・阜平县体育教育局・阜平县学校関係者等との教育交流会を行いました。話し合いの中で、今後の教育交流の進め方についてより具体的な提起が相互になされ、大いに意義ある時間となりました。さらに、職業技術教育センター視察（音楽教育参観・学校施設視察・教育扶貧展示館見学・国管局支援30周年展示館見学）を行い、大いに視察研修の成果を上げることができました。また、阜平县職業技術教育センター、阜平县山咀頭小学校の見学では、協会からの教育支援がいかに有効に活用されているかについて確認することができました。

2, 教育交流・受入事業

「教育交流プロジェクト」の実施計画の中で、今まで易県や東平県で行い、実績を上げてきた音楽教育を中心とする教育交流を柱として、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受け入れについて検討していくことになりました。2025年度9月に実施された視察研修訪中団と保定市阜平县及び体育教育局との話し合いの中で、訪日代表団の派遣・受入を実現させるべく確認されました。

3, 教育交流・支援事業

新たな「教育交流プロジェクト」の5年次として、河北省保定市阜平县への音楽教育支援を行いました。支援の規模としては、過去の取り組みと同じように、100万円／年で行っていくこととしました。

視察研修訪中団が、阜平县職業技術教育センターを訪問の折には、協会からの支援で購入された楽器を使つての学生による演奏も行われ、また、楽器収納庫には、協会からの寄贈である旨がきちんと掲示された楽器が並べられてありました。阜平县体育教育局からの報告書に、阜平县の音楽教育の発展充実のために、協会からの支援が大いに役立っていることが記載されていました。

教育交流・研究等助成事業

①教育交流ホームステイ

外国人留学生は、年々増加しています。特に多いのは、中国からの留学生です。彼らは日本での生活の間に、より多くのことを経験し、また学ぼうと意欲に燃えています。そうした留学生に関わって、日中の教育交流及び文化交流そして強い相互信頼による結びつきを目指す協会の願いとしては、「日本を理解し、日本と母国との友好を担ってくれる人材により多く育て欲しい」と、言うことがあると思います。日本に留学している学生のほとんどは、日本語学校に通学していますが、特に入学初年度は語学力も十分でない上に、なれない異文化の中で、学業・日常の生活面で困難に直面している学生も多いと言われています。協会では、こうした留学生の語学力の向上をめざし、日本をより良く理解する人材を育成するために、教育交流・研究等助成事業としてホームステイ事業を実施してきました。コロナ禍の影響により、2019年度の「第8回教育交流ホームステイ in 神奈川」の実施から、昨年度の再開までに5年も経過してしまいました。この取り組みは、協会の事業として大いに意義があるという評価をいただいていたので、2025年度「第10回教育交流ホームステイ in 山梨」として実施できたことは、大きな成果だと思います。

②日中教育文化交流シンポジウム

2025年度は、発展的な二部構成にして、一部を「第21回日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者朱 恒宇（大連外国語大学）の作文発表「『押し活』で生まれた新しい日中交流」を基調として、日中の教育文化交流について考え、その方向性を探る取り組みとしました。そして、第二部は、話題を広げ内容を深める形で、「日中教育文化交流の意義について考える」というシンポジウムのテーマのもとに、朱さんに加え、若狭谷理紗（東京芸術大学4年生・忘れられない中国滞在エピソード受賞者）楊 清（湖南省吉首大学・法政大学大学院入学予定者）の二人にそれぞれの体験の日中教育文化またその交流について話をしてもらいました。

このシンポジウムを通して「日中教育文化交流の意義」について、より深く検証し、今後の日中教育文化交流の展望や課題に焦点を当てるという成果を上げることができました。

③田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール

2024年度に引き続き、「第2回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール」を実施しました。奨学基金の事業として、ここ10年ほどの間に、飛躍的な数に達している東南アジア・南アジア等からの留

学生を対象に、具体的な日本語教育・日本との文化交流、そして就学の援助へとつながり発展する形での取り組みとして実施しました。協会の狙い通り「日本語作文コンクール」は、留学生たちの積極的な作品応募を促し、日本語習得・日本文化を考えるとという点から大いに意義ある取り組みとなりました。ご協力いただいている日本語学校の担当の先生方に、沢山の応募作品の中から10点を入選作品として選んでいただきました。そして、その入選作品の中からさらに5点を優秀賞として、公益事業検討委員の5名の委員に、内容40点、文法30点、表現30点の合計100点満点で、採点していただき、その合計点で選出しました。どの入選作品を見ても、内容が素晴らしく、良い取り組みになりました。入選者には、以下の奨学金を表彰状と一緒に渡しました。★優秀賞（3万円）5名 ★入 選（1万円）5名

④中国人の日本語作文コンクール

2025年度第21回日本語作文コンクール（日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛、公益財団日本中国教育交流協会協力）には、中国のほぼ全土にわたる省市自治区の大学、大学院、専門学校、高校、中学校等201校から2,391本もの多くの作品が寄せられました。2004年度にスタートしてから今年度で21回を重ねました。この間中国全土の500以上の学校から、累計63,302本の作品が寄せられました。中国で最も影響力のある日本語作文コンクールへと成長し、中国での日本語学習促進・日本文化普及に大きく貢献してきたと思います。当財団はコンクールの審査に参加するとともに、応募作品の中から2本を教育賞として表彰してきました。

第21回のテーマのコンセプトは「『推し活』と日中交流」。これに沿ったテーマおよびテーマごとの応募数は以下の通りです。（1）「推し活」で生まれた新しい日中交流（679本）（2）日本語で伝えたい、「私の物語」（1155本）（3）先生との出会いが私の人生を変えた（553本）男女別では女性が1648本、男性が743本でした。特筆すべき点としては、昨年続き中学校、高校および専門学校からの応募が20校を超えことです。1次から4次までの審査を行う中で、最終的に、日本大使賞を大連外国語大学の朱恒宇さんが受賞したほか、5名が一等賞、15名が二等賞、40名が三等賞を受賞しました。★教育賞・日中国際教育交流協会賞（5万円相当）張靖苒（復旦大学三年生）高宇涵（吉林大学二年生）

5. その他の活動

①2025年度は通常の理事会を3回、評議員会を2回、監査を1回開催しました。

②広報関係では、2026年3月に『会報32号』を発行しました。「共生力」は、残念ながら発行しませんでした。

③財政確立に向けての賛助会員の取り組みは引き続き行い多くの協力を得ました。